

【研究内容 学級活動（上学年）】

自他のよさを認め合い、人の役に立つ心地よさを感じられる学級活動 ～聴き合う関係作りと振り返りを生かした活動の工夫～

宮城県仙台市立沖野東小学校
教諭 杉山 真史

1 主題の設定

昨年度担任した本校の6年1組は32名である。5年生の2月まで6年生を送る会や卒業式参加へ向けて、様々な準備を重ねていたが、3月からの一斉休校によって、準備したものが実現することは叶わなかった。また、6月から始まった学校生活は、いろいろな制限があり、6年生として楽しみにしていた1年生との関りや異学年交流、委員会、クラブ活動が今まで通り行うことができなかった。子供たちの話を聞いたり、振り返りジャーナルを読んだりすると「これから何ができるのだろう。」という不安や「やっと会えた友達と過ごす最後の1年を大切にしたい。」「6年生として何かしたい。」という思いがあふれていた。

そこで、毎日の中に、不安や願いを聴き合う時間や子供たち一人一人の頑張りを認め合う機会を多く持ち、安心して過ごせる関係作りをしたいと考えた。また、子供たちの願いを形にし、「6年生として学校のため、下学年のために役に立った」という思いや「人から認められている」という自己有用感を持たせることができるよう本主題を設定した。

2 実践の概要

(1) 「質問の技」(ホワイトボード・ミーティング®)を使った聴き合う関係作り

子供たちが聴き合う場面を多く設定する、日常で取り組んだことを振り返るといった際に、「ホワイトボード・ミーティング®」で示されている「質問の技」を活用した。「質問の技」は、話し手に話す内容を委ねると共に、話し手の考えを深めたり、聴き手と情報の共有をしたりしやすくすることができる。この「質問の技」を繰り返し使うことで、相手の思いを受け止める素地ができると考えた。また、短い時間でより多くの子供たちが関わり合うことで、安心して思いを伝えることができる関係を作りたいと考えた。

- ・朝の会で1分30秒×2回（合計3分程度）でペアコミュニケーションを行う。
- ・テーマを設定し、「質問の技」だけを使って聴き合う。
(テーマの例「好きな〇〇というとは?」「土日どうだった?」「最近どんな感じ?」など)
- ・ペアは毎日変え、1年間継続して行う。

【テーマ「ペアコミュニケーションを1週間チャレンジして」の振り返りジャーナルより】

・〇〇さんと初めて話したけれど、マカロンの話で盛り上がりました。ペアコミュが終わってから、おすすめのお店について話しました。

○相手のちょっとしたことを知り、関係作りのきっかけとなった。

○ちょっとした話でも「聴いてもらえる」ことの心地よさを感じていた。

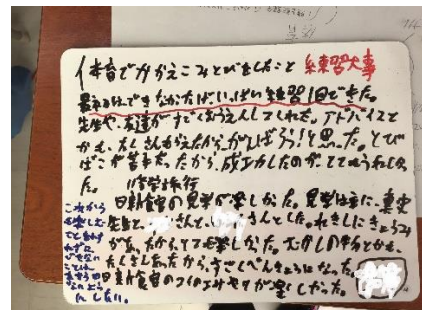
△ペアによっては、沈黙の時間が長い場合もある。その姿も受け止める大切さを感じた。

(2) 振り返りの工夫

一人一人が頑張っている様子や不安などを、振り返りを通して言語化し、次の活動に生かしたいと考えた。自己評価だけでなく、相互評価をすることで、自分のよさや頑張りに気付くよう取り組んだ。

① 振り返りジャーナル（「振り返りジャーナルで子どもとつながるクラス運営」岩瀬直樹・ちょんせいこ著（ナツメ社））

- ・帰りの会の前に、5分間程度時間を設定してノートに振り返りを書く。
- ・テーマを与える。（その日のチャレンジになったであろうこと）
- ・教師がコメントしたり、友達からコメントをもらったりする。



② 行事や1週間の振り返り、係活動の振り返りをする。

- ・ペアでA4のホワイトボードに「質問の技」を使って聴き、聴いたことを書く。
- ・赤で「よかったこと」「困ったこと」、青で「これからどうしたいか」を聴いて書く。
- ・ホワイトボードを見ながら振り返りジャーナルに書いたり、3、4人のグループで励ましのコメントや次の活動を考えたりする。

③ 「ハートカード」、「ありがとう単語帳」でお互いの頑張りを伝え合う。（8月、2月実施）

- ・1週間程度の期間を設定して、一人一人が全員に、日頃の感謝の気持ちやその人が頑張っていることをメッセージに書いて伝える。

【テーマ「振り返りジャーナルについて」の振り返りジャーナルより】

- ・始めたころより、今のジャーナルを見ると、自分の考えや気持ちをしっかり書くことができている。その成長したジャーナルや書かれた思い出が「宝物」になりました。

【テーマ「ハートカードにチャレンジ」の振り返りジャーナルより】

- ・みんなからももらったハートカードは、とてもうれしかったです。こんなに自分はいいいところがあるんだなと思うことができました。お互いに相手のことをいっぱい知ることは、とても大切だなと思いました。

(1) (2) で用いた「質問の技」

質問の技

- ① ~というところ？
- ② どんな感じ？
- ③ 例えば？
- ④ もう少しくわしく教えてください。
- ⑤ 具体的にどんな感じ？
- ⑥ どんなイメージ？
- ⑦ エピソードを教えてください。
- ⑧ なんでもいいですよ。
- ⑨ 他には？

「ちょんせいこのホワイトボード・ミーティング」（小学館）

子供たちにとって、「ハートカード」は、もらってもうれしい、書いているときも友達への気付きがあるものだった。



(3) 係活動とその話合い

振り返りジャーナルの中で子供たちから出された「誰かのために何かしたい」という思いを係活動という形で実践した。1～2カ月程度の期限を決めて、1つ以上の仕事をする事とした。自分の得意なことを生かす、やってみたい活動にそれぞれが取り組んだ。取り組んだ後、振り返りの話合いをし、次の活動を行った。

【係活動として行われたものの一部】

○1年生へ向けて

・1年生へのぬりえ作り

外遊びがあまりできない時期にぬりえを作成し、1年生へ届けた。

・紙芝居動画作り

紙芝居をiPadで撮影し、朝の時間に1年生の教室で流してもらった。

・ハロウィンの飾り作り

1年生の教室に、ハロウィンの飾りつけをしたいという子供たちが、飾りを作成した。ハロウィン前日の放課後、1年生がいない教室で飾りつけをさせてもらい、朝1年生を驚かせた。

○学級へ向けて

・挨拶カード

学校全体がもっと挨拶できるようにするために、まずは6年生から頑張ろうと考えた子供たちが、カードを作った。その後、学校全体でこのカードが使われた。

・イラスト

学級の友達の誕生日に似顔絵を描いた。似顔絵は、誕生日の週の学級だよりに掲載した。

・歴史新聞

6年生から始まった歴史の学習がもっと面白くなるようにと、歴史好きの子供たちが新聞を作成し、教室に掲示した。

○1年生への活動は、1年生の先生方や1年生からの手紙を通して喜んでもらっていることが子供たちに伝わった。また、学級での活動は、直接友達の反応を見ることで達成感を感じることができた。

△いろいろな活動のアイデアを出し、取り組める子供がいる一方、何をしたらよいか悩み友達の様子をうかがいながら活動している子供もいた。主体的に取り組むために工夫が必要だと感じた。

3 成果と課題

○「質問の技」を継続して使っていくことで、普段の会話やちょっとしたトラブルの際にも「～というところ？」「どんな感じ？」などと友達に問う場面が多く見られるようになった。

○日常や係活動の振り返りを継続する、相互に振り返りに対してコメントすることで、自分の頑張りや友達の頑張りを実感させることができた。

●学級全体での話合いでは、自分の考えを伝えることができない子供たちもいた。より安心して話することができる関係性をつくること、自分の考えが生かされていると感じることができる経験を積ませていくことの大切さを再認識した。

●振り返りの深まりには、個人差があった。一人一人をアセスメントした細やかな声掛けによって、振り返りが深まる視点を持たせたい。